

精神科領域専門医研修プログラム

■ 専門研修プログラム名：福井大学病院連携施設 精神科専門医研修プログラム

■ プログラム担当者氏名：小俣 直人

住 所：〒910 - 1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 23-3

電話番号：0776 - 61 - 8363

F A X：0776 - 61 - 8136

E-mail：omata@u-fukui.ac.jp

■ 専攻医の募集人数：(5) 人

■ 専攻医の募集時期：2017年7月1日～2017年8月31日

■ 応募方法：

以下の応募書類を Word または PDF の形式で、E-mail にて提出してください。
omata@u-fukui.ac.jp 宛に添付ファイル形式で送信してください。その際の件名は、
「専門医研修プログラムへの応募」としてください。

①申請書

②履歴書

③医師免許証（コピー）

④臨床研修修了登録証（コピー）または修了見込証明書

⑤健康診断書

電子媒体でのデータのご提出が難しい場合は、郵送にて提出してください。

〒910 - 1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 23-3 福井大学精神医学教室 医局長
小俣直人 宛に簡易書留にて郵送してください。また、封筒に「専攻医応募書類在中」と記載してください。

◆提出期限◆

2017年8月31日必着

■ 採用判定方法：

一次判定は書類選考で行います。そのうえで二次選考は面接を行います。

I 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念（全プログラム共通項目）

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

2. 使命（全プログラム共通項目）

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

3. 専門研修プログラムの特徴

福井大学精神医学教室は昭和 58 年に開講した新しい教室であるが、福井県下のほぼ全域や県外の隣接地域の精神医療が同門によって担われており、地域の精神科医療の中核となっている。関連病院が豊富であり、地域の医療機関とのネットワークが良好で、「互いに顔の見える医療環境」に恵まれている。

研修基幹施設である福井大学病院神経科精神科は開放病棟と閉鎖病棟から構成され、個室、隔離室、観察室も充実している。また、緩和ケアチームや精神科リエゾンチームに参加するなど、総合病院における精神医療に貢献している。専攻医は上級医によるマンツーマン指導のもとで入院患者を担当する。一般的な症例や他職種医療者とのチーム医療はもちろん、難治性うつ病などに対する修正型電気けいれん療法や、ビデオモニター可能な終夜睡眠ポリグラフィ専用個室におけるてんかんや睡眠障害の精査なども経験し、ほぼすべてのケースに対応できる基礎的な知識を身につけていく。さらに、福井大学精神医学教室ならびに関連病院の特徴的な取り組みとして、福井県永平寺町や近隣の大学とも協力しながら認知症の予防と早期診断・早期治療のための健診システムの導入・構築に関するプロジェクトを行っていること、児童思春期精神医学の総合的な研究施設である福井大学子どものこころの発達研究センターや、精神科と密接に関連する画像医学の研究施設である福井大学高エネルギー医学研究センターとは、それぞれのセンターが開設された当初から共同研究を続けていること、北米型 ER を進める当院救急部と定期的にカンファレンスを開催していること、などが挙げられる。専攻医は希望に応じて、これらに参加することができる。

研修連携施設は、それぞれ福井県嶺北地域・嶺南地域の主要医療機関である福井県立病院および杉田玄白記念公立小浜病院、単科精神科病院であり急性期治療から社会復帰まで広くカバーする松原病院、認知症の専門医療機関である福井県立すこやかシルバー病院の 4 病院である。これらの医療機関をローテートすることで、専攻医は専門医に必要な経験をもれなく積んでいく。

専門医取得後は、研修施設群の病院はもちろん、それ以外の病院にも勤務して希望した分野の知識をさらに深めていく。また、福井大学精神医学教室は臨床研究だけでなく、動物モデル等を用いた基礎研究にも臨床に応用できるようなテーマを中心に取り組んでいる。大学院入学や学位取得へのサポートも万全な体制をとっている。専門医取得後の留学も奨励しており、経験者は領域の視野を深め、外国での生活・人的交流など貴重な体験をしている。当プログラムは専門医取得がゴールではなく、その後の道もしっかりと拓かれているプログラムである。

II. 専門研修施設群と研修プログラム

1. プログラム全体の指導医数・症例数

- プログラム全体の指導医数： 12 人
- 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	1322	354
F1	257	80
F2	1815	499
F3	2085	379
F4	1854	169
F5	174	31
F6	86	28
F7	218	24
F8	225	32
F9	64	7
その他	393	40

2. 連携施設名と各施設の特徴

A 研修基幹施設

- ・施設名：福井大学病院
- ・施設形態：国立大学病院
- ・院長名：腰地 孝昭

- ・プログラム統括責任者氏名：和田 有司
- ・指導責任者氏名：小俣 直人
- ・指導医人数：(5) 人
- ・精神科病床数：(41) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	166	29
F1	12	2
F2	167	27
F3	439	66
F4	524	58
F5	60	13
F6	9	0
F7	22	1
F8	130	12
F9	45	6
その他	223	30

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は福井県唯一の特定機能病院であり、福井県の基幹医療施設としてなくてはならない存在となっている。精神科では主に難治性の統合失調症、気分障害、神経症の症例、認知症、睡眠障害、てんかんなど診断確定に各種検査が必要な症例、児童思春期や摂食障害の症例などの治療を行っている。麻酔科との共同で行う修正型電気けいれん療法、難治性統合失調症に対するクロザピン投与や季節性感情障害に対する高照度光療法なども積極的に行われている。また、総合病院精神科として身体合併症例の治療やリエゾン・コンサルテーション、緩和ケアなどにもあたっている。急性期の治療が中心となるが、病棟では「生活の中での医療」をモットーとして、現実感覚や生活意識を高めるため病棟行事・ワーキング（習字、絵画、木工、スポーツなど）が活発に行われている。

B 研修連携施設

① 施設名：福井県立病院

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：村北 和広
- ・指導責任者氏名：村田 哲人
- ・指導医人数：(3) 人
- ・精神科病床数：(279) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	262	51
F1	190	38
F2	941	295
F3	894	189
F4	754	71
F5	61	15
F6	22	13
F7	117	12
F8	54	12
F9	3	0
その他	15	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は971床を有する大規模な病院であり、精神科も279床という県立総合病院精神科としては最大規模の病棟を有している。県内唯一の三次救命救急センターや総合診療機能を活かした多職種協働チーム医療やリエゾン・コンサルテーションを幅広く実践し、急性期から社会復帰までの一貫した良質な精神医療（機能分化・効率化した病棟・外来体制の元で）および地域医療機関へのトリアージ機能や連携のあり方を習得できる。さらに、高度専門医療機関として、統合失調症・

気分障害・認知症はもとより、精神科救急・身体合併症・アルコール薬物依存症・難治性精神疾患治療（クロザピン・修正型電気けいれん療法）などの政策医療に特化した病棟やデイケア・作業医療科・訪問看護などのリハビリやアウトリーチ機能を駆使して、総合病院有床精神科としての特性を最大限に活かした包括的なこころの診療を研修できる。

② 施設名：杉田玄白記念公立小浜病院

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：吉田 治義
- ・指導責任者氏名：鈴木 馨
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 100 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	23	14
F1	12	17
F2	121	71
F3	178	30
F4	301	20
F5	43	2
F6	5	2
F7	44	7
F8	10	2
F9	7	0
その他	123	3

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 456 床を有する嶺南地域の中核病院、総合病院であり、身体合併を併存する精神疾患を中心に多彩な疾患、症例を経験できる 100 床の精神科病棟を有し

ており、身体合併症治療に加え、統合失調症、気分障害、認知症、思春期症例を含む多様な精神疾患の入院治療の実践経験を積める。難治性統合失調症に対してはクロザピンが投与できる環境が整っている。また、アルコール病棟はないが、AA ミーティングが毎週外来待合室で行われている。

③ 施設名：松原病院

- ・施設形態： 民間病院
- ・院長名：山森 正二
- ・指導責任者氏名：山田 淳二
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(260) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	601	180
F1	43	23
F2	584	106
F3	555	94
F4	269	20
F5	10	1
F6	50	13
F7	35	4
F8	31	6
F9	9	1
その他	24	7

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は病床数 260 床を有し、精神科、神経内科、内科、歯科口腔外科を標榜して各分野の専門医が活動している。入院はスーパー救急病棟、認知症疾患治療病棟、精神科療養病棟や、うつ病やストレス性疾患に特化したストレスケア病棟に

において行われる。主な機能として、精神科救急システムへの参加、医療観察法鑑定や司法鑑定、医療観察法指定通院医療機関などがある。平均すると、毎月 2-3 例の措置入院や応急入院の患者を受けている。また、社会復帰関連施設として大規模デイケアがあり、一部うつ病の職場復帰を目指したリワークプログラムを行っている。さらに、グループホームや社会復帰作業所もあり、訪問看護とともにこれら地域生活支援を多職種が連携して続けている。介護保険関係では認知症に特化し、認知症疾患医療センター、地域包括支援センター、認知症グループホーム、訪問看護ステーションを運営している。その他、公益財団法人の定款に掲げる災害地への心のケアチームの派遣、犯罪被害者への支援、rTMS によるうつ病治療の可能性など、研究教育を積極的に行っている。脳と心のドックも当院の特徴で神経内科医による診察や MRI 検査にとどまらず、心理テストを追加して、トータルな疾患予防を行っている。現在、病院の質の向上を目指し、医療機能評価機構の更新、電子カルテシステムのバージョンアップ、診療所との連携ツールの開発などに着手している。

④ 施設名：福井県立すこやかシルバー病院

- ・施設形態：公的病院
- ・院長名：伊藤 達彦
- ・指導責任者氏名：村田 憲治
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 100 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	270	80
F1	0	0
F2	2	0
F3	19	0
F4	6	0
F5	0	0
F6	0	0

F7	0	0
F8	0	0
F9	0	0
その他	8	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、平成7年7月1日に開院した認知症性疾患を対象とした精神科（および神経内科）を標榜する病院である。外来部門は基本紹介制（地域連携室を介して）で、軽症レベルから重度レベルまでの認知症の方々を対象とする「精神科デイケア」も併設（定員30名）している。入院部門は、2病棟で計100床の認知症治療病床を有し、さまざまなタイプの認知症性疾患の入院治療（主にBPSDへの治療）の実践経験（薬物ならびに非薬物療法的関わり）をつむことが可能である。

また、認知症にかかわる方々への「介護教育部門」も併設しており、日常的に認知症に関する定期的な講義等を様々な分野・領域から行っている。講師は、院内はもとより院外から幅広く依頼した形で、専門性を高めた形も採っている。さらに、「家族会」や、平成26年9月時より福井市内において「認知症カフェ」を開設し、毎土曜日に行っている。

上述の如く、認知症に関して様々な紹介医はもとより、それぞれの地域包括支援センターや介護保険下の様々な施設群との密なる接点を持ちながら、認知症医療を地域とのつながり（連携）の上で行っている。このように、向後、一層必要となる認知症へのよりきめ細やかな精神科医療（診断・治療・マネジメント等）、福祉、看護からの関わりを学び、多職種との連携を行いながら実践してゆくことができる。

3. 研修プログラム

1) 年次到達目標

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。1. 患者及び家族との面接、2. 疾患概念の病態と理解、3. 診断と治療計画、4. 補助検査法、5. 薬物・身体療法、6. 精神療法、7. 心理社会的療法など、8. 精神科救急、9. リエゾン・コンサルテーション精神医学、10. 法と精神医学、11. 災害精神医学、12. 医の倫理、13. 医療安全管理、14. 感染制御。

各年次の到達目標を以下に記載する。

到達目標

1年目：福井大学病院で指導医と一緒に統合失調症、気分障害、器質性精神障害

の患者等を受け持ち、面接の仕方、CT・MRI の読影や脳波判読および各種心理テストなどの補助検査法、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学び、リエゾン精神医学を経験する。とくに面接によって情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。外来では初診患者の予診や指導医の診察陪席を行う。病院全体の専攻医を対象とした医の倫理に関する研修会に参加して実践に即した医療倫理を学び、院内カンファレンスにおける症例検討や行動制限最小化委員会を通して治療同意能力の評価や同意能力がない場合の治療の必要性などを学ぶ。また、病院全体のスタッフを対象とした医療安全管理や感染制御に関する研修会に各々年 2 回以上参加する。院内カンファレンスにおける定期的な症例報告、論文抄読や、機会があれば地方会発表を行う。

2 年目：福井大学病院または福井県立病院で、指導医の指導を受けつつ、自立して、面接の仕方を深め、診断と治療計画の能力を充実させ、薬物療法の技法を向上させ、精神療法として認知行動療法と力動的な精神療法の基本的考え方と技法を学ぶ。精神科救急に従事して対応の仕方を学ぶ。神経症性障害および種々の依存症患者の診断・治療を経験する。緊急入院の症例や措置入院患者の診察に立ち会うことで、精神医療に必要な法律について学習する。1 年目に引き続き、院内カンファレンスにおける定期的な症例報告、論文抄読や、機会があれば地方会発表を行う。病院全体の専攻医を対象とした研修会、院内カンファレンスや行動制限最小化委員会を通して全人的な医療倫理を学ぶ。また、病院全体のスタッフを対象とした医療安全管理や感染制御に関する研修会に各々年 2 回以上参加する。

3 年目：指導医から自立して診療できるようにする。研修を行う病院は、専攻医の志向に応じてより幅広い選択肢の中から選択する。診断と治療計画及び薬物療法の診療能力をさらに充実させるとともに、認知行動療法や力動的な精神療法を上級者の指導の下に実践する。慢性統合失調症患者等を対象とした心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療や災害時の精神医療等を学ぶ。児童・思春期精神障害およびパーソナリティ障害の診断・治療を経験する。機会があれば全国学会での発表や論文執筆を行う。1, 2 年目に引き続き、病院全体の専攻医を対象とした研修会、院内カンファレンスや行動制限最小化委員会を通して全人的な医療倫理を学ぶ。また、病院全体のスタッフを対象とした医療安全管理や感染制御に関する研修会に各々年 2 回以上参加する。

2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」(別紙)、「研修記録簿」(別紙)を参照。

3) 個別項目について

① 倫理性・社会性

福井大学病院において他科の専攻医とともに研修会が実施される。医療法規や制度を理解した上での患者の人権に配慮した適切なインフォームドコンセント、多職種で構成されるチーム医療、リエゾン・コンサルテーション、精神疾患に対するスティグマを払拭するための社会的啓発活動などを学んでいく。

② 学問的姿勢

専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽自己学習することが求められる。与えられた症例を通して精神医療の基礎となる制度、チーム医療、情報開示に耐える医療について学ぶ。特に興味のある症例については地方会・全国学会での発表や論文執筆を行って成果を社会に発信し、自らの知識を整理する。

③ コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、1. 患者や家族の苦悩を受け止め共感し、問題点や病態を把握して対策を立てること、2. 患者・家族や多くの職種の人々とコミュニケーションをとること、3. 根拠に基づき、適切で説明の出来る医療を行うこと、4. 自主的・積極的な態度で問題の解決にあたり、患者から学ぶという謙虚な姿勢を備えること、5. 高い倫理性を備えることを目指す。

④ 学術活動（学会発表、論文の執筆等）

日本精神神経学会学術集会や院内カンファレンス・抄読会に参加し、基本的な知識・技能を学ぶ。研修基幹施設において臨床研究・基礎研究に従事して、その成果を学会や論文で発表する。

⑤ 自己学習

指導医の指導のもとで必読図書を熟読し、また症例に関する文献を日常的に検索する。日本精神神経学会やその関連学会等で作成している研修ガイド、e-learning、精神科領域研修委員会が指定したDVDなどを活用して、より広く、より深い知識や技能について研鑽する。

4) ローテーションモデル

基本的には1年目に研修基幹施設である福井大学病院、2年目に研修連携施設の一つである福井県立病院、3年目に福井県立病院以外の研修連携施設にて研修を行う。1つの病院において1年以上研修を行うことや、1年間に複数の病院をローテートすることも可能である。主なローテートパターンを別紙に示す。

- 5) 研修の週間・年間計画
別紙を参照。

4. プログラム管理体制について

・プログラム管理委員会

医師：和田 有司（委員長）

医師：小俣 直人

医師：村田 哲人

医師：鈴木 馨

医師：山田 淳二

医師：村田 憲治

看護師：北川 恵美子

精神保健福祉士：岩佐 千恵

・プログラム統括責任者

和田 有司

・連携施設における委員会組織

各連携施設の指導責任者および実務担当の指導医によって構成される。

5. 評価について

1) 評価体制

福井大学病院：小俣 直人

福井県立病院：村田 哲人

杉田玄白記念公立小浜病院：鈴木 馨

松原病院：山田 淳二

福井県立すこやかシルバー病院：村田 憲治

2) 評価時期と評価方法

- ・6ヶ月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を当該研修施設の指導責任者が専攻医および指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。
- ・当該研修施設の研修終了時に、研修目標の達成度を指導責任者と専攻医が評価し、フィードバックする。但し、一つの研修施設での研修が1年以上継続する場合には、少なくとも1年に1度以上は評価し、フィードバックする。
- ・1年後（年度末）に1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任

者に提出する。

- ・その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。

3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」(別紙)に研修実績を記載し、指導医による形式的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回行う。

福井大学病院にて専攻医の研修履歴(研修施設、研修期間、担当した専門研修指導医)、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

- 専攻医研修マニュアル(別紙)
- 指導医マニュアル(別紙)

・専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価を行い記録する。少なくとも年に1回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的自己評価を行うこと。研修を修了しようとする年後末には総括的評価により評価が行われる。

・指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価を行い、指導医も形成的評価を行い記録する。少なくとも年1回は指定された研修項目を年次毎の達成目標に従って、各分野の形成的評価を行い評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックを行い記録し、翌年度の研修に役立たせる。

6. 全体の管理運営体制

1) 専攻医の就業環境の整備(労務管理)

各施設の労務管理基準に準拠する。

2) 専攻医の心身の健康管理

各施設の健康管理基準に準拠する。

3) プログラムの改善・改良

プログラム統括責任者は1年ごとに専攻医と面接を行い、専攻医の研修プログラムに対する評価を得る。

プログラム統括責任者の下、プログラム管理委員会にてプログラム内容について年1回討議し、継続的な改良を実施する。

4) FDの計画・実施

指導医は、日本精神神経学会あるいは日本専門医機構の実施する、コーチング、フィードバック技法、振り返りの促しなどの技法を中心とした研修を受け、その記録を管理する。年1回、プログラム管理委員会が主導して各施設における研修状況を評価する。